

地域密着型金融の機能強化の推進に関する
アクションプログラム（平成17～18年度）

「地域密着型金融推進計画」の進捗状況

平成17年4月～平成18年3月

大和信用金庫

当金庫では、平成17年8月に策定した『地域密着型金融の機能強化計画の推進に関するアクションプログラムの機能強化計画』についての、17年4月から18年3月までの期間における進捗状況を以下の通り公表いたします。

I. 平成18年3月期における当金庫の現況

(1) 預金・貸出金の残高

預金残高の年間増加額は、平成17年度はペイオフの全面解禁後ではありましたが、地域のみなさまの信頼の証として、216億円の年間増加となり、残高では3,500億円となりました。

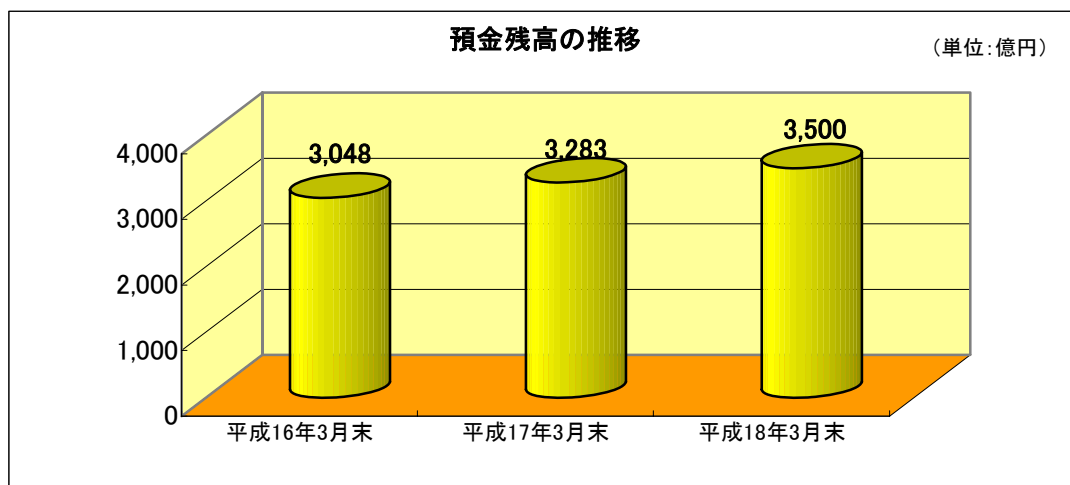
平成17年度下半期においても半年間で127億円の増加となっています。

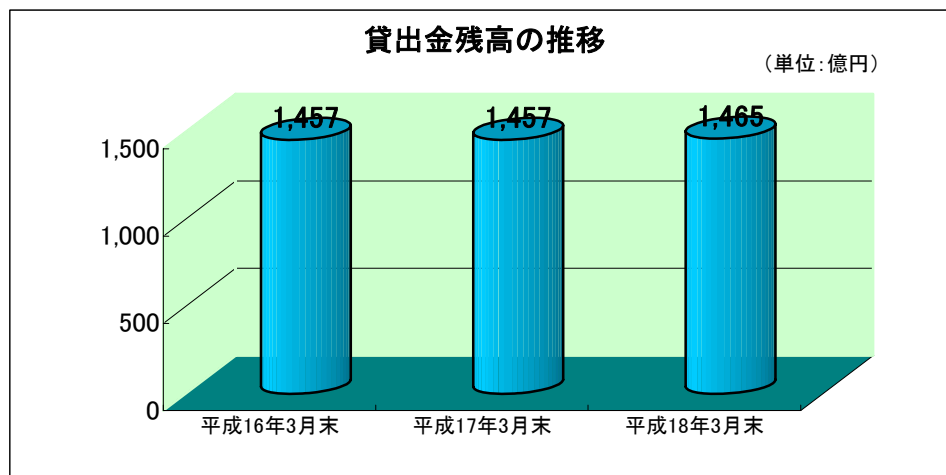
貸出金残高については、1,465億円となり、年間増加額では8億円でしたが、平成17年下半期では32億円の増加となり、資金需要の回復がみられています。

平成18年3月末現在の預貸率（お預かりしたご預金のうち、貸出金として地域のみなさまにご利用いただいている比率・未残ベース）は41.86%となっています。

(単位：百万円)

<項目>	16年3月	17年3月	18年3月
預金(未残)	304,837	328,344	350,017
貸出金(未残)	145,709	145,725	146,545
預貸率(未残)	47.79%	44.38%	41.86%

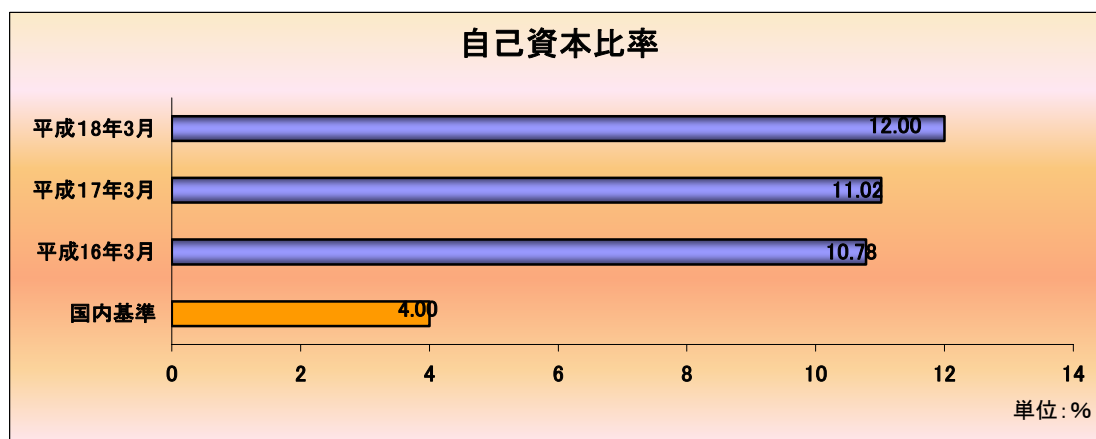




(2) 自己資本比率

自己資本比率は金融機関の健全性を判断するポイントのひとつです。

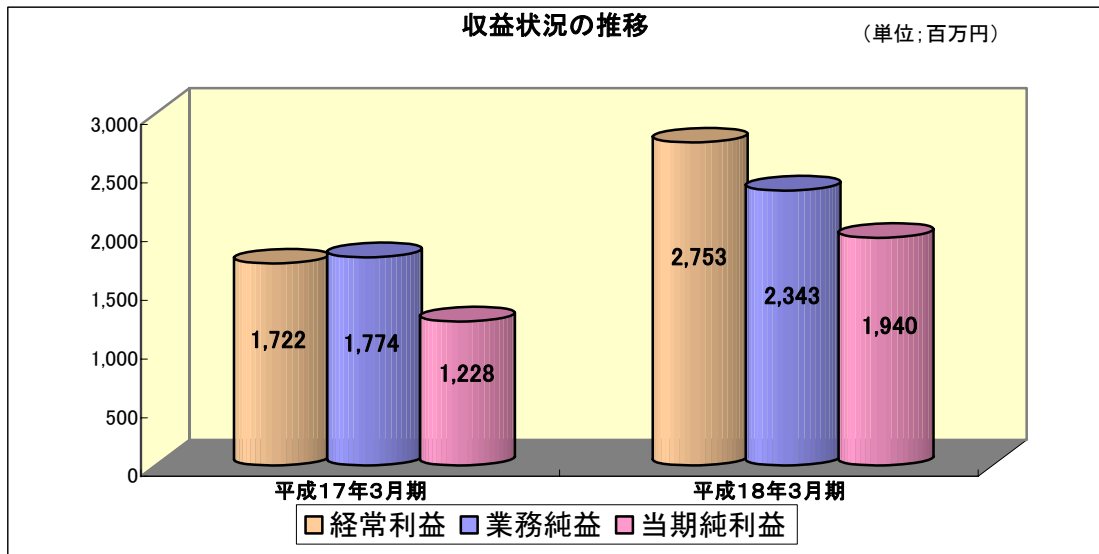
当金庫ではリスクを適正に把握し、資産の健全化を図りながら自己資本の充実に努めてきた結果、平成18年3月末現在の自己資本比率は国内基準の4.0%を大きく上回る**12.00%**となっています。



(3) 収益状況

平成17年度の収益状況は、貸出金利息収入は前期比減少しましたが、前期に引き続き有価証券などの資金運用が比較的好調であったことと、不良債権の処理額が低水準で推移したことから、前期対比で下記の通り増収増益となり、当金庫創立以来の最高益を計上することができました。

- 経常利益は、前期比1,031百万円増加の2,753百万円となりました。
- 業務純益は、前期比569百万円増加の2,343百万円となりました。
- 当期純利益は、前期比712百万円増加の1,940百万円となりました。
- 推進計画における数値目標である「コア業務純益」および「コア業務純益率」につきましては、上記の要因により目標を達成いたしました。



コア業務純益の推移

	平成17年度3月期	平成18年度3月期
コア業務純益 (百万円)	1,390	2,004
コア業務純益率 (%)	0.42	0.56

※コア業務純益とは基本的な収益力を示す数値であり、業務純益から債券5勘定戻と一般貸倒引当金純繰入額を控除した額です。コア業務純益率はコア業務純益額を総資産で除した比率です。

II. アクションプログラムの重要項目（大項目）毎の進捗状況

信用金庫は、その本来業務であり使命とも言える融資を通じて、地域金融の円滑化を図り、地域経済を活性化させることに存在意義があります。

このことを信用金庫の原点と考え、当金庫は貸出金の増強を最重点目標とし、適正な対価負担を求めつつ、「融資に軸足を置いた質の高い金融サービス業」を目指したビジネスモデルを展開します。

そのために地域密着型金融推進のための機能強化に向けた土台作り、収益管理態勢の強化等、“経営の質”を重視した方向へと転換することを、平成17年度の経営方針としていました。

今回の「地域密着型金融推進計画」においては、「選択」と「集中」を踏まえた計画を策定し、17年4月から18年3月においては、以下の通り取組んで参りました。

1. 事業再生・中小企業金融の円滑化

(1) 創業・新事業支援機能等の強化および取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

- ・目利き力養成、企業再生支援、融資渉外等の研修へ、スケジュール通り派遣しました。
- ・中小企業金融公庫との間で、企業再建関連の資金を1件導入できました。
- ・「やまとベンチャー企業育成ファンド」における投資実績は3件（内当金庫取引先1件）でした。
- ・「やましんビジネスセミナー」を3回開催しました。（テーマは“新入社員研修”“企業会計セミナー”“新会社法”）
- ・「税務」「法律」「年金」の合同相談開催の他、毎月「税務」「法律」「年金」の相談会を、各営業店巡回にて開催しました。

(2) 要注意先債権等の健全債権化

- ・17年度の財務支援対象先として19先（名寄せ後先数）を選定し、内5先を「財務支援室と営業店の共同支援先」、14先を「営業店単独支援先」に区分しました。
- ・総対象先40先の内、9先について経営改善計画書の策定を完了し、7先について計画書策定段階にあります。
- ・財務諸表への意識改善および景気の回復基調から、17年度では財務支援対象先の内、7先において債務者区分のランクアップが図れました。

(3) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進

- ・担保・保証に過度に依存しない融資商品として16年12月に発売した「やましんビジネスローン『社長！どうですか』」について、17年度での実行が226件、745百万円（累計305件、1,108百万円）となりました。

- ・企業信用格付結果に基づく格付上位先への無担保・優遇貸出金利による融資商品「経営安定資金【本業無担保証貸】」を発売、11件、90百万円の実行を行い、担保・保証に過度に依存しない中小企業向け貸出金の実行金額は835百万円でした。
- ・TKC金融保証制度の融資実行が1件、3百万円ありました。

(4) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化

- ・与信取引に関する顧客説明態勢の整備を行い、7月15日より新態勢を実施しました。

(5) 人材の育成

- ・目利き力養成、企業再生支援、融資渉外等の研修には、実施スケジュールどおり派遣し、中小企業診断士の資格取得候補者2名の内1名が有資格者となり、もう1名は「中小企業大学」に入学しました。

2. 経営力の強化

(1) リスク管理態勢の整備・充実と収益力の向上

- ・19年3月末からの新自己資本比率規制（バーゼルⅡ）導入に備えての情報収集および新基準でのリスク試算を行いました。
- ・信用コスト控除後の貸出金利息の概念を、店別決算に導入しました。

(2) ガバナンスの強化ならびにコンプライアンス態勢の強化

- ・利用者の声を経営に反映すべく、アンケート調査の実施を行いました。
- ・コンプライアンス関連の研修会を、延べ69回開催する等、意識の向上を図っています。

(3) IT戦略的活用

- ・統合ネットワークについて、本部・営業店の工事を9月中に完了し、10月より第1段階の情報系・音声系のサービスを開始しました。

3. 地域の利用者の利便性向上

(1) 地域の利用者の利便性向上

- ・利用者満足度向上に向けたアンケート調査を実施し、経営の改善に向けての検討を行いました。

(2) 地域貢献に関する情報開示、ならびに経営内容に関する情報開示

- ・顧客配布用リーフレット「平成16年度（17年3月期）決算速報」調製しました。
- ・7月、ミニディスクロージャーおよび平成16年度版のディスクロージャー誌発刊、12月「2005中間期ディスクロージャー誌」をそれぞれ発刊しました。

- ・桜井市内一斉清掃活動が新聞に掲載、子育て応援預金「ANGEL PLUS ONE」がNHKの全国放送にて放映される等、マスコミ媒体による情報開示がなされました。
- ・「大和川生活排水対策社会実験」に参加し、その取組みについて18.3.18「県“暮らし”と“環境”フェスティバル」でのパネルディスカッションに出席しました。

4. 今後の課題

次に掲げております<地域密着型金融推進計画における数値目標の進捗状況>の通り、自主的に定めた数値目標に対する進捗状況にもばらつきがありますので、18年4月からの1年間では進捗の遅れている項目についてのスピード感のある推進が重要となります。

個別の項目では、預り資産の増加額や事業性貸出金の増加およびコア業務純益については、概ね目標通りに推移していますが、企業再生支援への取組みや内部格付け制度の構築等、取組みが遅れている項目もありますので、更なる強化が必要と考えています。

現在、利用者満足度の向上に向けてのアンケート調査を実施し、集計・分析の上、“経営の質”の改善を行うこととしています。さらに、経営力の強化、収益力の向上に向けた戦略を打ち出すべく、業務改革委員会を更新して、18年度からの新3カ年計画「やましんルネッサンス21」を策定し、その取組みをスタートさせています。

これからも「やましん」は地域社会の発展を目指して、地元のみなさまに信頼され、親しまれる信用金庫としてその使命を全うするため、役職員一同頑張ってまいります。

以上

【地域密着型金融推進計画における数値目標の進捗状況】

(単位：百万円)

<数値目標設定項目>	16年度 実績	17年度		18年度	
		数値目標	18年3月期 実績	数値目標	推進期間 目標計
①事業性貸出金増加額	2,915	4,500	3,948	5,000	9,500
②事業性貸出金残高割合 (%)	61.4	62.5	63.7	63.7	—
③預かり資産増加額	135	2,000	2,987	3,000	5,000
④コア業務純益額	1,390	1,707	2,004	1,900	—
⑤コア業務純益率 (%)	0.42	0.48	0.56	0.52	—
⑥ランクアップ取組み先数 (先)	20	19	19	19	38
⑦担保・保証に過度に依存しない 中小企業向け貸出金実行金額	363	1,000	835	1,000	2,000

- ① 事業性貸出金増加額……………信用金庫の本業である地域金融の円滑化を図るため、個人向け以外の貸出金の増加額を目標とし、中小企業向けの事業性貸出金を中心として増加を図ります。
- ② 事業性貸出金残高割合……………総貸出金に占める、事業性貸出金の割合です。
- ③ 預かり資産増加額……………現在取扱中の個人年金保険に加え、17年10月から取扱を開始した投資信託を中心に、お客様の資金運用ニーズに応えた結果、好調に推移しました。
- ④ コア業務純益額……………新3ヵ年計画「やましんチャレンジ21」における目標である17年度におけるコア業務純益額17億円は達成できました。
- ⑤ コア業務純益率……………コア業務純益額を総資産で除した比率です。
- ⑥ ランクアップ取組み先数…財務支援活動を引き続き充実させて、企業業績の良化を図り、債
(名寄せ後先数) 務者区分の引上げに繋げていきます。計画通り進捗しています。
- ⑦ 担保・保証に過度に依存
しない中小企業向け貸出
金実行額……………やましんビジネスローン「社長！どうですか」を中心に、担保や保証に過度に依存しない貸出金の増加を図ります。17年度では、未達となりましたので引き続き努力します。

以上